



Title	平成二十三年度 退職教員略歴・主要業績
Author(s)	
Citation	大阪大学大学院文学研究科紀要. 2012, 52, p. 175-196
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/23273
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

平成二十三年度 退職教員略歴・主要業績

こ ばやし
小林 しげる 茂 教授 共生文明論講座 (人文地理学)
人文地理学講座

もりやす
森安 たか お 孝夫 教授 世界史講座 (東洋史学)

小林茂教授 略歴・主要業績

略 歴

- | | |
|-------------|---|
| 1948年 3月29日 | 名古屋市千種区に生まれる |
| 1966年 3月 | 愛知県立旭丘高等学校卒業 |
| 1971年 3月 | 京都大学・文学部史学科（人文地理学専攻）卒業 |
| 1973年 3月 | 京都大学・大学院文学研究科修士課程（地理学専攻）修了 |
| 1974年 3月 | 京都大学・大学院文学研究科博士課程（地理学専攻）退学 |
| 1974年 4月 | 東京都立大学・理学部（地誌学講座）・助手（～1979年 3月） |
| 1979年 4月 | 九州大学・教養部・講師（～1980年 5月） |
| 1980年 6月 | 九州大学・教養部・助教授（～1991年 8月） |
| 1982年 4月 | 国立民族学博物館・第3研究部・助教授（併任、～1991年 9月） |
| 1991年 9月 | 九州大学・教養部・教授（～1994年 3月） |
| 1991年10月 | 国立民族学博物館・第3研究部・教授（併任、～1992年 3月） |
| 1993年 4月 | 外務省専門調査員として在ネパール日本大使館に出張（～1995年 6月） |
| 1994年 4月 | 九州大学・文学部・教授（～1994年 6月） |
| 1994年 6月 | 九州大学・大学院比較社会文化研究科（基層構造講座）・教授
（～1998年 3月） |
| 1997年10月 | 大阪大学・文学部（人文地理学講座）・教授（併任、～1998年 3月） |
| 1998年 4月 | 大阪大学・文学部（人文地理学講座）・教授（～1999年 3月） |
| 1999年 4月 | 大阪大学・大学院文学研究科（人文地理学講座）・教授（～2007年 3月） |
| 1999年 5月 | 外務事務官として（併任、～同年 5月23日）ネパール総選挙監視に出張 |
| 2003年 1月 | 京都大学より博士（文学）の学位を取得 |
| 2003年 4月 | 放送大学・客員教授（人文地理学担当）（～現在） |
| 2006年 4月 | 独立行政法人日本学術振興会・学術システム研究センター・専門研究員（～2009年 3月） |
| 2007年 4月 | 大阪大学・大学院文学研究科（共生文明論講座）・教授（人文地理学講座を兼任、～2012年 3月） |

受 賞

- | | |
|----------|-----------------------------------|
| 2004年11月 | 第4回人文地理学会賞 |
| 2010年 2月 | 日本国際地図学会特別賞（授賞団体、外邦図研究グループの代表として） |
| 2010年 3月 | 日本地理学会賞（優秀賞） |

2011年 8 月 大阪大学功績賞

学界関係役員

人文地理学会

協議員（任期1992年11月～1994年10月、1998年11月～2000年10月、2004年11月～2008年10月）

評議員（任期2000年11月～2004年10月、2008年10月～現在）

理事（集会担当、任期2002年11月～2004年10月）

日本地理学会

代議員（任期2004年度～2011年度）

歴史地理学会

評議員（任期1976年 4 月～1978年 3 月、2008～2012年度）

日本国際地図学会

評議員（任期1997～1998年度〔第18期〕、2003～2012年度〔第21～25期〕）

財団法人地図情報センター

評議員（任期2009年 6 月～財団法人地図情報センターが一般財団の移行認可を受け、一般財団へ移行登録日の前日まで）

主要業績（年代順）

1974

小林 茂「ユーゴスラヴィアの移動牧畜」人文地理（人文地理学会）26（1）：1－30.（2月）

1975

Kobayashi, Shigeru, A ranching system in Japan. *Geographical Reports of Tokyo Metropolitan University*, 10: 25－41.

1977

小林 茂「風土論と地理学」経済地理学年報（経済地理学会）23（2）：33－44.（9月）

1979

小林 茂「家畜の命名と指示」（谷 泰編『人類学方法論の研究』京都大学人文科学研究所）65－95.（3月）

1980

小林 茂「中部ネパール、マガール族の耕地制度と景観変化」史林（史学研究会）63（2）：274－304.（3月）

1981

小林 茂「文化地理学と生態学」（野間三郎・岡田 真編『生態地理学』朝倉書店）170－

195. (11月)

1983

小林 茂「奄美諸島の伝統的イネ栽培と〈踏耕〉」人類科学（九学会連合）35: 69-104. (3月) (小林 茂『農耕・景観・災害—琉球列島の環境史—』第一書房, 23-55, 2003. 6月に加筆して掲載)

1984

小林 茂「南西諸島の〈低い島〉とイネ栽培」民博通信（国立民族学博物館）23: 77-90. (2月) (大幅に加筆して「15世紀後半の南西諸島南部の土地利用と景観：『李朝実録』所載の漂流記録の分析から」と改題して丸山雍成編『前近代における南西諸島と九州』多賀出版, 161-180, 1996. 2月に掲載し、さらに加筆して小林 茂、『農耕・景観・災害—琉球列島の環境史—』第一書房, 135-155, 2003. 6月に掲載)

小林 茂・中村和郎・森脇 広・中井達郎「奄美諸島の石灰岩台地と伝統的環境利用」人類科学（九学会連合）36: 29-86. (3月) (この一部について、小林 茂『農耕・景観・災害—琉球列島の環境史—』第一書房, 151-189, 2003. 6月に大幅に加筆して掲載)

1985

小林 茂・中村和郎「南西諸島の伝統的イネ栽培と環境」（九学会連合「日本の風土」調査委員会編『日本の風土』弘文堂）167-206. (2月) (この一部について、小林 茂『農耕・景観・災害—琉球列島の環境史—』第一書房, 56-121, 2003. 6月に大幅に加筆して掲載)

1986

小林 茂「沖縄諸島における明治37（1904）年の干ばつ」（中村和郎・岩田修二編『地誌学を考える—戸谷洋先生退職記念地誌学論文集—』古今書院）139-169. (9月) (小林 茂『農耕・景観・災害—琉球列島の環境史—』第一書房, 251-282, 2003. 6月に加筆して掲載)

小林 茂・久武哲也「奄美諸島における近世—明治期のイネ栽培の変容過程」農耕の技術（農耕の技術研究会）9: 1-34. (11月) (農耕文化研究振興会編『琉球弧の農耕文化—世界の農耕、その技術と文化V—』大明堂, 10-42, 1998, 4月に一部訂正のうえ再録. さらにこの一部について、小林 茂『農耕・景観・災害—琉球列島の環境史—』第一書房, 79-88, 105-116, 2003. 6月に加筆して掲載)

1987

小林 茂「ネパール・ヒマラヤのヤク—ウシ雑種生産」（福井勝義・谷 泰編『牧畜文化の原像』日本放送出版協会）207-244. (1月)

宮地六美・小林 茂・関原裕一・小野菊雄「“島原大変”に関する徳川時代の古絵地図の地質学的解釈」九州大学教養部地学研究報告 25: 39-52. (3月)

1989

小林 茂「中南部九州の火砕流台地と伝統的環境利用」（浮田典良編『日本の農山漁村とその変容』大明堂）317-337. (6月)

小林 茂「作物の文化地理：近世奄美諸島のサツマイモを例に」（大島襄二・佐々木高明・

浮田典良編『文化地理学』古今書院) 183-215. (11月) (小林 茂『農耕・景観・災害—琉球列島の環境史—』第一書房, 189-206, 2003. 6月に加筆して掲載)

1991

磯 望・下山正一・大庭康時・池崎譲二・小林 茂・佐伯弘次「博多遺跡群周辺における遺跡形成環境の変遷」(高倉洋彰編『日本における初期弥生文化の成立』(横山浩一先生退官記念論文集Ⅱ) 横山浩一先生退官記念事業会・文献出版) 506-552. (2月) (小林 茂・佐伯弘次・磯 望・高倉洋彰編『福岡平野の古環境と遺跡立地』九州大学出版会, 69-112, 1998. 3月に一部訂正のうえ「博多遺跡群をめぐる環境変化: 弥生時代から近代まで博多はどう変わったか」と解題して掲載)

下山正一・磯 望・野井英明・高塚 潔・小林 茂・佐伯弘次「福岡市鳥飼低地の海成第四系と更新世後期以降の地形形成過程」九州大学理学部研究報告(地球惑星科学) 17(1): 1-23. (小林 茂・佐伯弘次・磯 望・高倉洋彰編『福岡平野の古環境と遺跡立地』九州大学出版会, 45-68, 1998. 3月に一部訂正のうえ「鳥飼低地の第四紀層と地形形成」と解題して掲載)

1992

小林 茂・川崎晃一・佐々木悠・大柿哲朗・伊藤和枝・吉水 浩「ネパール中部農村の生業活動と季節」健康科学(九州大学健康科学センター) 14: 59-68. (2月)

小林 茂・佐伯弘次「近世の福岡・博多市街絵図: 公用図について」歴史学・地理学年報(九州大学教養部) 16: 25-61. (3月) (小林 茂・佐伯弘次・磯 望・高倉洋彰編『福岡平野の古環境と遺跡立地』九州大学出版会, 235-257, 1998. 3月に一部訂正のうえ掲載)

溝田智俊・下山正一・窪田正和・竹村恵二・磯 望・小林 茂「北部九州の緩斜面上に発達する風成塵起源の細粒質土層」第四紀研究(日本第四紀学会) 31(2): 101-111. (5月)

小林 茂「生業活動研究の発展と文化地理学」人文地理(人文地理学会) 44(4): 476-494. (8月)

小林 茂・佐伯弘次・磯 望・下山正一「福岡藩作製の元禄期絵図にみられる地磁気方位」地図(日本国際地図学会) 30(3): 24-33. (9月) (小林 茂・佐伯弘次・磯 望・高倉洋彰編『福岡平野の古環境と遺跡立地』九州大学出版会, 259-274, 1998. 3月に一部訂正のうえ「福岡藩の元禄期絵図の作製方法と精度」と改題して掲載)

小林 茂「隆起サンゴ礁の景観史」(サンゴ礁地域研究グループ編『熱い心の島—サンゴ礁の風土誌—(日本のサンゴ礁地域2)』古今書院) 95-110. (10月)

小林 茂「南西諸島におけるイネ栽培の成立条件: 伝播論を検証する」考古学ジャーナル 352(10月号): 15-20. (小林 茂『農耕・景観・災害—琉球列島の環境史—』第一書房, 122-131, 2003. 6月に加筆して掲載)

小林 茂「カトマンズ盆地のイネの二期作」農耕の技術(農耕文化研究振興会) 15: 91-109. (11月) (農耕文化研究振興会編『アジアの農耕様式—世界の農耕、その技術と文化Ⅳ—』大明堂, 38-

56, 1997. 9 月に加筆修正のうえ掲載)

1993

小林 茂「ネパール・ヒマラヤのコモン・フィールド・システム」(佐々木高明編『農耕の技術と文化』集英社) 549-569. (9月)。

Kobayashi, Shigeru, Common field in the Nepal Himalaya (Le système des terrains communaux de l'Himalaya népalais). Environnements et aménagements montagnards (France et Japon) : Actes du 6ème Colloque franco-japonais, Grenoble, 16-20 Septembre 1991. (*Les Dossiers de la Revue de Géographie Alpine*, No.11) 153-159.

Kawasaki, T., Itoh, K., Uezono, K., Ogaki, T., Yoshimizu, Y., Kobayashi, S., Osaka, T., Ogata, M., Dhungel, S., Sharma, S. and Acharya, G. P., Investigation of high salt intake in a Nepalese population with low blood pressure. *Journal of Human Hypertension*, 7 : 131-140.

1994

小林 茂「カトマンズの都市問題」歴史学・地理学年報(九州大学教養部) 18: 119-149. (3月)

1995

内嶋善兵衛・勘米良亀齡・田川日出夫・小林 茂編『日本の自然 地域編 7 九州』岩波書店, 198p. (3月)。

小林 茂・伊藤 颯・矢田部龍一・高橋治郎「1993年7月豪雨によるネパールの自然災害の概要」自然災害科学(日本自然災害学会) 14 (2) : 111-123.

1996

小林 茂「ネパールにおけるマラリアに対する文化的・生物学的適応」比較社会文化(九州大学大学院比較社会文化研究科) 2 : 59-73. (3月)

1998

小林 茂「ネパールの低開発と知識人：D.B. ビスタ氏〈運命論と開発：近代化にむけたネパールの闘い〉をめぐって」比較社会文化(九州大学大学院比較社会文化研究科) 4 : 49-64. (2月)

小林 茂・磯 望・佐伯弘次・高倉洋彰編『福岡平野の古環境と遺跡立地一環境としての遺跡との共存のために一』九州大学出版会, 289p. (3月)

小林 茂・松原孝俊・六反田豊「朝鮮から琉球へ、琉球から朝鮮への漂流年表」歴代宝案研究(沖縄県教育委員会) 9 : 73-136. (3月)(一部修正して『第七回中琉歴史関係国際学術会議中琉歴史関係論文集』中琉文化経済協会, 690-797, 1999. 12月に再掲載)

Kawasaki, M., Kawasaki, T., Ogaki, T., Itoh, K., Kobayashi, S., Yoshimizu, Y., Aoyagi,

K., Iwakawa, A., Takahashi, S., Sharma S., and Acharya, G. P., Sero-prevalence of *Helicobacter pylori* infection in Nepal: low prevalence in isolated rural village. *European Journal of Gastroenterology & Hepatology*, 10: 47–50.

1999

小林 茂「カトマンズ都市圏の固形廃棄物処理問題」(成田孝三編『大都市圏研究(下)』大明堂) 309–334. (3月)

小林 茂「徳之島に漂着した朝鮮人漂流者の自力回航と帰還」徳之島郷土研究会報24: 52–58. (10月)

小林 茂「近世後期における琉球船の朝鮮漂着と自力回航」待兼山論叢 日本学編(大阪大学文学会) 33: 1–15. (10月)

Hamano, S., Kobayashi, S., Ogaki, T., Koga, M., Kawasaki, M., Ito, K., Saito, A., Tsuji, M., Tokunaga, S., Sharma, S., Acharya, G.P., and Kawasaki, T., A survey on helminthic infections in two rural communities in Nepal. *Japanese Journal of Tropical Medicine and Hygiene*, 27(4): 511–515.

2000

小林 茂「近世の南西諸島における天然痘の流行パターンと人痘法の施行」歴史地理学(歴史地理学会) 42(1): 47–63. (1月)(小林 茂『農耕・景観・災害—琉球列島の環境史—』第一書房, 283–309, 2003. 6月に加筆して掲載)

川島健治郎・濱野真二郎・小林 茂・古賀正崇・大柿哲朗・斉藤篤司・多田 功・川崎晃一「ネパールにおける肺吸虫および肺吸虫症の研究」健康科学(九州大学健康科学センター) 22: 89–93. (2月)

Sakai, Y., Kobayashi, S., Shibata, H., Furuumi, H., Endo, T., Fucharoen, S., Hamano, S., Acharya, G.P., Kawasaki, T. and Fukumaki, Y., Molecular analysis of α -thalassemia in Nepal: correlation with malaria endemicity. *Journal of Human Genetics*, 45: 127–132.

2001

小林 茂「琉球王府の対天然痘戦略と漂流民」(琉球中国関係国際学術会議編『第八回琉中歴史関係国際学術会議論文集』琉球中国関係国際学術会議, 琉球大学) 141–158. (3月)

小林 茂・磯 望・下山正一編『太宰府市史 環境資料編』太宰府市, 565p.+付図11. (9月)

小林 茂「農業水利」(小林 茂・磯 望・下山正一編『太宰府市史 環境資料編』太宰府市) 291–387. (9月)

小林 茂・堤 研二「土地利用の変化と伝統的環境利用」(小林 茂・磯 望・下山正一編『太宰府市史 環境資料編』太宰府市) 389–471. (9月)

2002

- 小林 茂・鳴海邦匡「島原大変における眉山崩壊時の水蒸気爆発に関連すると推定される資料について」待兼山論叢 日本学編（大阪大学文学会）36: 1-18. (12月)
- 小林 茂「マラリアと環境」（柳澤悠編『現代南アジア4 開発と環境』東京大学出版会）203-216. (12月)

2003

- 小林 茂「ヒマラヤ農村に関するふたつの視角：高度帯とアクセス」（石原 潤編『農村空間の研究（上）』大明堂）141-158. (3月)
- 小林 茂『農耕・景観・災害—琉球列島の環境史—』第一書房, 357p. (6月)
- Watanabe, K., Itoh, M., Matsuyama, H., Hamano, S., Kobayashi, S., Shirakawa, T., Suzuki, A., Sharma, S., Acharya, G. P., Itoh, T., Kawasaki, T., Kimura, E. and Aoki, Y., Bancroftian filariasis in Nepal: a survey for circulating antigenemia of *Wuchereria bancrofti* and urinary IgG4 antibody in two rural areas of Nepal. *Acta Tropica*, 88(1): 11-15. (9月)
- 小林 茂「不確定な環境情報と環境破壊論」（池谷和信編『地球環境問題の人類学—自然資源へのヒューマンインパクト—』世界思想社）92-117. (11月)

2004

- 小林 茂・杉浦芳夫編『人文地理学』放送大学教育振興会、309p. (3月)
- 渡辺理絵・小林 茂・「日本—中国間の地図作製技術の移転に関する資料について」地図（日本国際地図学会）42（3）：13-28. (9月)
- 小林 茂・渡辺理絵・鳴海邦匡「アジア太平洋地域における旧日本軍の空中写真による地図作製」待兼山論叢 日本学編（大阪大学文学会）38: 1-24. (12月)（小林 茂編『近代日本の地図作製とアジア太平洋地域—「外邦図」へのアプローチ—』大阪大学出版会, 228-245, 2009. 2月に加筆して掲載）

2005

- Sasaki, H., Kawasaki, T., Ogaki, T., Kobayashi, S., Itoh, K., Yoshimizu, T., Sharma, S., and Acharya, G.P., The prevalence of diabetes mellitus and impaired fasting glucose/ glycaemia (IFG) in suburban and rural Nepal—the communities-based cross-sectional study during the democratic movements in 1990. *Diabetes Research and Clinical Practice*, 67(2): 167-174. (2月)
- 高倉洋彰・磯 望・小林 茂・石松好雄・長 洋一編『太宰府市史 通史編Ⅰ』太宰府市, 1,124p. (3月)
- 小林 茂「太宰府市の土地利用変化と景観」（高倉洋彰・磯 望・小林 茂・石松好雄・

- 長 洋一編『太宰府市史 通史編 I』太宰府市) 193-202. (3月)
- 渡辺正氏所蔵資料編集委員会編(世話人: 小林 茂)『終戦前後の参謀本部と陸地測量部
—渡辺正氏所蔵資料集—』大阪大学文学研究科人文地理学教室, 124p. (3月)
- 小林 茂「疾病にみる近世琉球列島」(財団法人沖縄県文化振興会公文書管理部史料編集
室編『沖縄県史 各論編 4 近世』沖縄県教育委員会) 539-565. (3月)
- 小林 茂「外邦図の目録および一覧図について」待兼山論叢 日本学編(大阪大学文学会)
39: 1-29. (12月)

2006

- 鳴海邦匡・小林 茂「近世以降の神社林の景観変化」歴史地理学(歴史地理学会) 48 (1):
1-17. (1月)
- 小林 茂「近代日本の地図作製と東アジア: 外邦図研究の展望」E-journal GEO(日本地
理学会) 1 (1): 52-66. (1月)

2007

- Suzuki, A., Hamano, S., Shirakawa, T., Watanabe, K., Endo, T., Sharma, S., Jha, B.,
Acharya, G.P., Nishiyama, K., Fukumaki, Y. and Kobayashi, S., The distribution of
hereditary erythrocytic disorders associated with malaria, in a lowland area of Nepal:
a micro-epidemiological study. *Annals of Tropical Medicine and Parasitology*, 101(2):
113-122. (3月)
- Kobayashi, S., Strategies to cope with smallpox in the peripheral areas of East Asia
during the early modern era. (脇村孝平編『近現代アジアにおける「健康」の社会経
済史—疾病、開発、医療、公衆衛生—』大阪市立大学経済学研究科) 23-33. (3月)
- 小林 茂・鳴海邦匡「沖縄県における土地整理事業の準備過程: 地図作製を中心に」待兼
山論叢 日本学編(大阪大学文学会) 41: 1-24. (12月)

2008

- 鳴海邦匡・大澤研一・小林 茂編(2008.2)『城下町大坂』大阪大学出版会, 100p. (2月)
- 小林 茂・杉浦芳夫編『改訂版 人文地理学』放送大学教育振興会, 329p. (3月)
- 小林 茂・渡辺理絵「近代東アジアにおける地図作製技術の移転」(千田 稔編『アジア
の時代の地理学—伝統と変革—』古今書院) 145-158. (3月)
- 小林 茂・鳴海邦匡「総合地理研究会と皇戦会: 柴田陽一「アジア・太平洋戦争期の戦略
研究における地理学者の役割」の批判的検討」歴史地理学(歴史地理学会) 50 (4):
30-47頁. (9月)
- Kobayashi, S., Race and malaria in the geographies and ethnographies of the Himalayas:
a new perspective from recent epidemiological studies. *International Journal of South*

Asian Studies, 1: 135–159. (9月)

宮澤 仁・照内弘通・山本健太・関根良平・小林 茂・村山良之「外邦図デジタルアーカイブの構築と公開・運用上の諸問題」地図（日本国際地図学会）46（3）：1–12. (11月)

小林 茂・岡田郷子「十九世紀後半における朝鮮半島の地理情報と海津三雄」待兼山論叢 日本学編（大阪大学文学会）42: 1–26. (12月)

2009

小林 茂編『近代日本の地図作製とアジア太平洋地域—「外邦図」へのアプローチ—』大阪大学出版会, 512p. (2月)

小林 茂「近代日本の地図作製とアジア太平洋地域」（小林 茂編『近代日本の地図作製とアジア太平洋地域—「外邦図」へのアプローチ—』大阪大学出版会）2–26. (2月)

小林 茂・渡辺理絵「近代東アジアの土地調査事業と地図作製：地籍図作製と地形図作製の統合を中心に」（小林 茂編『近代日本の地図作製とアジア太平洋地域—「外邦図」へのアプローチ—』大阪大学出版会）246–255. (2月)

宮澤 仁・村山良之・小林 茂「外邦図デジタルアーカイブの公開に関する課題」（小林 茂編『近代日本の地図作製とアジア太平洋地域—「外邦図」へのアプローチ—』大阪大学出版会）436–444. (2月)

小林 茂・宗 建郎「環境史からみた日本の森林：森林言説を検証する」（池谷和信編『地球環境史からの問い—ヒトと自然の共生とは何か—』岩波書店）154–173. (10月)

渡辺理絵・山近久美子・小林 茂「1880年代の日本軍将校による朝鮮半島の地図作製：アメリカ議会図書館所蔵図の検討」地図（日本国際地図学会）47（4）：1–16. (12月)

2010

小林 茂・渡辺理絵・山近久美子「初期外邦測量の展開と日清戦争」史林（史学研究会）93（4）：473–505. (7月)

小林 茂・鳴海邦匡・波江彰彦編『日本地政学の組織と活動—総合地理研究会と皇戦会—』大阪大学文学研究科人文地理学教室, 171p. (11月)

小林 茂・岡田郷子・渡辺理絵「東アジア地域に関する初期外邦図の編集と刊行」待兼山論叢 日本学篇（大阪大学文学会）44: 1–32. (11月)

2011

小林 茂『外邦図—帝国日本のアジア地図—』中央公論新社（中公新書2119）, 282p. (7月)

山近久美子・渡辺理絵・小林 茂「広開土王碑文を将来した酒匂景信の中国大陆における活動：アメリカ議会図書館蔵の手描き外邦図を手がかりに」朝鮮学報（朝鮮学会）221: 117–159. (10月)

2012

- 小林 茂・宮澤 仁編『グローバル化時代の人文地理学』放送大学教育振興会, 264p. (3月)
- Kobayashi, S., Japanese mapping of Asia-Pacific areas, 1873-1945: an overview. *Cross-Currents: East Asian History and Culture Review*, 1 (2). (3月発信予定、URL: <http://cross-currents.berkeley.edu/>)

森安孝夫教授 略歴・主要業績

略 歴

- 昭和23（1948）年2月11日 福井県坂井郡三国町（現：坂井市）に生まれる。
- 昭和35（1960）年3月 福井県三国町立新保小学校 卒業
- 昭和38（1963）年3月 福井県三国町立三国中学校 卒業
- 昭和41（1966）年3月 福井県立藤島高等学校 卒業
- 昭和42（1967）年4月 東京大学文科Ⅲ類 入学
- 昭和44（1969）年12月 東京大学文学部東洋史学科 進学
- 昭和47（1972）年3月 東京大学文学部東洋史学科 卒業
- 昭和47（1972）年4月 東京大学大学院人文科学研究科修士課程東洋史学専攻入学
- 昭和50（1975）年3月 東京大学大学院人文科学研究科修士課程東洋史学専攻修了
- 昭和50（1975）年4月 東京大学大学院人文科学研究科博士課程東洋史学専攻進学
- 昭和53（1978）年10月 東京大学大学院人文科学研究科博士課程東洋史学専攻休学
フランス政府給費留学生としてパリに留学
- 昭和55（1980）年6月 パリより帰国
- 昭和56（1981）年3月 東京大学大学院人文科学研究科博士課程東洋史学専攻
単位修得退学
- 昭和56（1981）年4月 （財）東洋文庫 日本学術振興会奨励研究員
- 昭和57（1982）年4月 金沢大学文学部専任講師 同大学院専任講師併任
- 昭和57（1982）年10月 金沢大学文学部助教授 同大学院助教授併任
- 昭和59（1984）年4月 大阪大学文学部助教授 アジア諸民族史講座主任
大阪大学大学院（文学研究科）助教授併任
- 平成4（1992）年7月16日 大阪大学より博士（文学）の学位を取得
- 平成6（1994）年4月 大阪大学文学部教授 アジア諸民族史講座主任
大阪大学大学院（文学研究科）教授併任
- 平成7（1995）年4月 大阪大学文学部教授 世界史講座担当
大阪大学大学院（文学研究科）教授併任
- 平成10（1998）年4月 大阪大学大学院文学研究科教授
大阪大学文学部教授併任
- 平成23（2011）年7月 Société Asiatique（アジア協会，本部パリ）終身名誉会員
- 平成24（2012）年3月 大阪大学を定年退職

受賞

- | | |
|----------------|--|
| 昭和50（1975）年11月 | 流沙海西奨学会賞（第8回）、江上波夫記念流沙海西奨学会 |
| 昭和63（1988）年11月 | 東方学会賞（第7回）、（財）東方学会 |
| 平成15（2003）年5月 | 大阪大学共通教育賞（第2回）、大阪大学共通教育機構 |
| 平成15（2003）年5月 | コレージュ＝ド＝フランス招待教授記念メダル、
コレージュ＝ド＝フランス |

学会関係役員

- | | |
|--------------------------------------|--|
| 東方学会 | 評議員（任期2000年6月～2003年9月；2009年9月～2011年9月）
理事（任期2003年9月～2009年9月）
学術委員（任期2011年9月～現在に至る） |
| 内陸アジア史学会 | 常任理事（任期1994年11月～現在に至る） |
| 日本モンゴル学会 | 理事（任期1987年5月～2012年3月） |
| 日仏東洋学会 | 評議員（任期1991年3月～2011年3月） |
| 東洋史研究会 | 評議員（任期2001年11月～2011年6月） |
| 『内陸アジア言語の研究』 編集長（任期1994年10月～2011年3月） | |

主要業績（年代順）

1973

1. 「ウィグルと吐蕃の北庭争奪戦及びその後の西域情勢について」『東洋学報』 55-4, 1973 / 3, pp. 60-87.

1974

2. 「ウィグル仏教史史料としての棒杭文書」『史学雑誌』 83-4, 1974 / 4, pp. 38-54.

1977

3. 「ウィグルの西遷について」『東洋学報』 59-1/2, 1977 / 10, pp. 105-130.
4. 「チベット語史料中に現われる北方民族 ——DRU-GU と HOR——」『アジア・アフリカ言語文化研究』 14, 1977 / 12, pp. 1-48.

1979

5. 「増補：ウィグルと吐蕃の北庭争奪戦及びその後の西域情勢について」, 流沙海西奨学会（編）『アジア文化史論叢』 3, 東京, 山川出版社, 1979 / 8, pp. 199-238.

1980

6. 「ウイグルと敦煌」, 榎 一雄（編）『講座敦煌 2 敦煌の歴史』東京, 大東出版社, 1980 / 7, pp. 297-338.

7. 「イスラム化以前の中央アジア史研究の現況について」『史学雑誌』89-10, 1980 / 10, pp. 50-71.
8. "La nouvelle interprétation des mots *Hor* et *Ho-yo-hor* dans le manuscrit Pelliot tibétain 1283." *Acta Orientalia Academiae Scientiarum Hungaricae* 34-1/3, 1980, pp. 171-184.

1981

9. "Qui des Ouigours ou des Tibétains ont gagné en 789-792 à Beš-baliq?" *Journal Asiatique* 269-1/2, *Numéro spécial: Actes du Colloque international (Paris, 2-4 octobre 1979): Manuscrits et inscriptions de Haute Asie du V^e au XI^e siècle*, 1981 / 5, pp. 193-205.

1982

10. "An Uigur Buddhist's Letter of the Yüan Dynasty from Tun-huang —Supplement to "Uigurica from Tun-huang"—." *Memoirs of the Research Department of the Tōyō Bunko* 40, 1982, pp. 1-18.
11. 「渤海から契丹へ ——征服王朝の成立——」, 『東アジア世界における日本古代史講座 7 東アジアの変貌と日本律令国家』東京, 学生社, 1982 / 1, pp. 71-96.
12. 「景教」, 前嶋信次ほか (共編) 『オリエント史講座 3 渦巻く諸宗教』東京, 学生社, 1982 / 3, pp. 264-275.

1983

13. 「元代ウイグル仏教徒の一書簡 ——敦煌出土ウイグル語文献補遺——」, 護 雅夫 (編) 『内陸アジア・西アジアの社会と文化』東京, 山川出版社, 1983 / 6, pp. 209-231.

1984

14. 「吐蕃の中央アジア進出」『金沢大学文学部論集 (史学科篇)』4 (1983), 1984 / 3, pp. 1-85, + 2 pls.

1985

15. 「チベット文字で書かれたウイグル文仏教教理問答 (P. t. 1292) の研究」『大阪大学文学部紀要』25, 1985 / 3, pp. 1-85, + 1 pl.
16. 「ウイグル語文献」, 山口瑞鳳 (編) 『講座敦煌 6 敦煌胡語文献』東京, 大東出版社, 1985 / 8, pp. 1-98, incl. 4 pls.

1986

17. 「『善悪因果経』の流通とその史的背景」, 『三島海雲記念財団第23回事業報告書 (昭和60年度)』東京, 三島海雲記念財団, 1986 / 10, pp. 225-231.

1987

18. 「中央アジア史の中のチベット ——吐蕃の世界史的 position 付けに向けての展望——」, 長野泰彦／立川武蔵（共編）『チベットの言語と文化』東京、冬樹社、1987 / 4, pp. 44-68.
19. 「敦煌と西ウイグル王国 ——トウルファンからの書簡と贈り物を中心に——」『東方学』74, 1987 / 7, pp. 58-74.

1988

20. 「敦煌出土元代ウイグル文書中のキンサイ綴子」, 榎博士頌寿記念東洋史論叢編纂委員会（編）『榎博士頌寿記念東洋史論叢』東京、汲古書院、1988 / 11, pp. 417-441, incl. 2 pls.
21. 山田信夫／小田壽典／梅村 坦 と共著「ウイグル文契約文書の総合的研究」『内陸アジア史研究』4, 1988 / 3, pp. 1-35.

1989

22. 吉田 豊／新疆ウイグル自治区博物館 と共著「魏氏高昌国時代ソグド文女奴隷売買文書」『内陸アジア言語の研究』4 (1988), 1989 / 3, pp. 1-50, + 1 pl.
23. 「ウイグル文書笥記（その一）」『内陸アジア言語の研究』4 (1988), 1989 / 3, pp. 51-76.
24. 「トルコ仏教の源流と古トルコ語仏典の出現」『史学雑誌』98-4, 1989 / 4, pp. 1-35.

1990

25. "L'origine du Bouddhisme chez les Turcs et l'apparition des textes bouddhiques en turc ancien." In: A. Haneda (ed.), *Documents et archives provenant de l'Asie Centrale. Actes du Colloque Franco-Japonais organisé par l'Association Franco-Japonaise des Études Orientales*, Kyoto: Dôhōsha, 1990 / 2, pp. 147-165.
26. 「ウイグル文書笥記（その二）」『内陸アジア言語の研究』5 (1989), 1990 / 3, pp. 69-89.
27. 多魯坤＝闕白爾／梅村 坦 と共著「ウイグル文仏教尊像受領命令文書研究 ——USp. No. 64 などにみえる“čuv”の解釈を兼ねて——」『アジア・アフリカ言語文化研究』40, 1990 / 9, pp. 13-34, incl. 2 pls.

1991

28. 『ウイグル＝マニ教史の研究』『大阪大学文学部紀要』31/32(合併号), 1991 / 8, 248 頁, 図版・スケッチ多数, 地図2枚.
29. 「仏教と異宗教との出遭い」, 龍谷大学三五〇周年記念学術企画出版編集委員会（編）『仏教東漸——祇園精舎から飛鳥まで——』京都、思文閣出版、1991 / 12, pp. 108-125.

1992

30. 多数と共著 桑山正進（編）『慧超往五天竺国伝研究』京都, 京都大学人文科学研究所, 1992 / 3, xii + 292頁, 図版多数. (再版: 京都, 臨川書店, 1998 / 1.)
31. 「ウイグル文書笥記 (その三)」『内陸アジア言語の研究』 7 (1991), 1992 / 5, pp. 43-53.

1993

32. 山田信夫（著）；小田壽典／P. ツィーメ／梅村 坦／森安孝夫（共編）『ウイグル文契約文書集成』全3巻, 吹田, 大阪大学出版会, 1993 / 12.
N. Yamada; edited and revised by J. Oda / P. Zieme / H. Umemura / T. Moriyasu, *Sammlung uigurischer Kontrakte*. 3 vols., Suita (Osaka): Osaka University Press, 1993 / 12. (This work is written both in Japanese and in German.)

1994

33. 「ウイグル文書笥記 (その四)」『内陸アジア言語の研究』 9, 1994 / 6, pp. 63-93.
34. 「ボール・ペリオ」『月刊しにか』 5-6, 1994 / 6, pp. 106-113. = 再録: 高田時雄（編）『東洋学の系譜 欧米篇』東京, 大修館書店, 1996 / 12, pp. 137-152.

1995

35. 「日本における内陸アジア史並びに東西交渉史研究の歩み ——イスラム化以前を中心に——」『内陸アジア史研究』 10, 1995 / 3, pp. 1-26.
36. 「古代ウイグル文書の世界」(平成七年度春季東洋学講座講演要旨)『東洋学報』 77-1/2, 1995 / 10, pp. 169-173.

1996

37. "Notes on Uighur Documents." *Memoirs of the Research Department of the Tōyō Bunko* 53 (1995), 1996, pp. 67-108.
38. 「中央ユーラシアから見た世界史 ——東洋史と西洋史の間——」『あうろーら』 4, 1996 / 8, pp. 26-38.
39. 「世界史の中の異文化交流」, 柏木隆雄／山口 修（共編）『異文化の交流』吹田, 大阪大学出版会, 1996 / 11, pp. 87-107.

1997

40. 「オルトク（幹脱）とウイグル商人」, 森安孝夫（編）『近世・近代中国および周辺地域における諸民族の移動と地域開発』（平成7・8年度科学研究費補助金基盤研究（B）（2）研究成果報告書）, 豊中, 大阪大学文学部, 1997 / 3, pp. 1-48.
41. 「ウイグル文字新考 ——一回回名称問題解決への一礎石——」, 『東方学会創立五十周年記念 東方学論集』東京, 東方学会, 1997 / 5, pp. 1238-1226 (逆頁).

42. 「大英図書館所蔵ルーン文字マニ教文書 Kao. 0107 の新研究」『内陸アジア言語の研究』12, 1997 / 7, pp. 41-71, + 4 pls.
43. 「『シルクロード』のウイグル商人 ——ソグド商人とオルトク商人のあいだ——」, 『岩波講座世界歴史 11 中央ユーラシアの統合 (九～一六世紀)』東京, 岩波書店, 1997 / 11, pp. 93-119.

1998

44. “A Report on the 1996-1997 Mongol-Japanese Expeditions in Mongolia.” *Newsletter of the Circle of Inner Asian Art* 7, 1998 / 4, pp. 6-8.
45. 「中央アジア学の今日的意義 ——新たなる世界史への視点——」『月刊しにか』9-7, 1998 / 7, pp. 70-75.
46. 石見清裕 と共著「大唐安西阿史夫人壁記の再読と歴史学的考察」『内陸アジア言語の研究』13, 1998 / 9, pp. 93-110, + 2 pls.
47. 吉田 豊 と共著「モンゴル国内突厥ウイグル時代遺蹟・碑文調査簡報」『内陸アジア言語の研究』13, 1998 / 9, pp. 129-170.
48. 「ウイグル文契約文書補考」『待兼山論叢 (史学篇)』32, 1998 / 12, pp. 1-24, incl. 2 pls.

1999

- 49-0. 森安孝夫／A. オチル (共編)『モンゴル国現存遺蹟・碑文調査研究報告』豊中, 大阪大学文学研究科内, 中央ユーラシア学研究会, 1999 / 3, 292 頁, スケッチ多数.
T. Moriyasu / A. Ochir (eds.), *Provisional Report of Researches on Historical Sites and Inscriptions in Mongolia from 1996 to 1998*. Toyonaka (Osaka): Society of Central Eurasian Studies, 1999 / 3, 292 pp. + many illustrations.
- 49-1. 「シネウス遺蹟・碑文」, 森安孝夫／A. オチル (共編)『モンゴル国現存遺蹟・碑文調査研究報告』豊中, 中央ユーラシア学研究会, 1999 / 3, pp. 177-195.
- 49-2. 吉田 豊／片山章雄 と共著「カラ＝バルガスン碑文」, 森安孝夫／A. オチル (共編)『モンゴル国現存遺蹟・碑文調査研究報告』豊中, 中央ユーラシア学研究会, 1999 / 3, pp. 209-224.
50. Peter Zieme と共著 “From Chinese to Uighur Documents.”『内陸アジア言語の研究』*Nairiku Ajia gengo no kenkyū [Studies on the Inner Asian Languages]* 14, 1999 / 9, pp. 73-102, + 7 pls.

2000

51. 「欧州所在中央アジア出土文書・遺品の調査と研究」『東方学』99, 2000 / 1, pp. 122-134.

52. 柳洪亮／榮新江／吉田 豊 と共著 新疆吐魯番地区文物局（編）『吐魯番新出摩尼教文献研究』北京，文物出版社，2000 / 1, 297 頁，図版あり。
53. "The Sha-chou Uighurs and the West Uighur Kingdom." *Acta Asiatica* 78, 2000 / 3, pp. 28-48.
54. 「沙州ウイグル集団と西ウイグル王国」『内陸アジア史研究』15, 2000 / 3, pp. 21-35.
55. 「河西帰義軍節度使の朱印とその編年」『内陸アジア言語の研究』15, 2000 / 10, pp. 1-121, + 1 table, +10 pls. in color & 5 pls. in black and white.
56. 吉田 豊 と共著「ベゼクリク出土ソグド語・ウイグル語マニ教徒手紙文」『内陸アジア言語の研究』15, 2000 / 10, pp. 135-178.
57. "On the Uighur *čxšapt ay* and the Spreading of Manichaeism into South China." In: R. E. Emmerick / W. Sundermann / P. Zieme (eds.), *Studia Manichaica. IV. Internationaler Kongress zum Manichäismus, Berlin, 14.-18. Juli 1997, (Berichte und Abhandlungen der Berlin-Brandenburgischen Akademie der Wissenschaften, Sonderband 4)*, Berlin: Akademie Verlag, 2000, pp. 430-440.
58. "The West Uighur Kingdom and Tun-huang around the 10th-11th Centuries." *Berichte und Abhandlungen der Berlin-Brandenburgischen Akademie der Wissenschaften* 8, Berlin: Akademie Verlag, 2000, pp. 337-368, incl. many pls. (pp. 358-368).

2001

59. "Uighur Buddhist Stake Inscriptions from Turfan." In: L. Bazin / P. Zieme (eds.), *De Dunhuang à Istanbul. Hommage à James Russell Hamilton*, (Silk Road Studies, 5), Turnhout (Belgium): Brepols, 2001 / 3, pp. 149-223.
60. 「ウイグル文字文化からモンゴル文字文化へ」『日本モンゴル学会紀要』31, 2001 / 3, pp. 175-176.

2002

61. "On the Uighur Buddhist Society at Čiqtim in Turfan during the Mongol Period." In: M. Ölmez / S.-Ch. Raschmann (eds.), *Splitter aus der Gegend von Turfan, Festschrift für Peter Zieme anlässlich seines 60. Geburtstags*, (Türk Dilleri Araştırmaları Dizisi, 35), Istanbul / Berlin: Şafak Matbaacılık, 2002 / 4, pp. 153-177.
62. 「ウイグルから見た安史の乱」『内陸アジア言語の研究』17, 2002 / 9, pp. 117-170, + 2 pls.

2003

63. "Uighur Inscriptions on the Banners from Turfan Housed in the Museum für Indische Kunst, Berlin." In: Chhaya Bhattacharya-Haesner, *Central Asian Temple Banners in the Turfan Collection of the Museum für Indische Kunst, Berlin*, Berlin: Dietrich Reimer Verlag, 2003 / 1, pp. 461-474.
64. "Four Lectures at the Collège de France in May 2003. History of Manichaeism among the Uighurs from the 8th to the 11th Centuries in Central Asia." 「コレクション＝ド＝フランス講演録 ウイグル＝マニ教史特別講義」, 森安孝夫 (編) 『シルクロードと世界史』 (大阪大学 21 世紀 COE プログラム 「インターフェイスの人文科学」 報告書, 第 3 巻), 豊中, 大阪大学大学院文学研究科, 2003 / 12, pp. 23-111, +15 pls. in colour, 8 maps, 3 figs.
 - I. "Introduction à l'histoire des Ouïghours et de leurs relations avec le Manichéisme et le Bouddhisme." (pp. 24-38.) 和文版: 「世界史の中におけるウイグル史とマニ教＝仏教二重窟」 (pp. 39-48.)
 - II. "Manichaeism under the East Uighur Khanate with Special References to the Fragment Mainz 345 and the Kara-Balgasun Inscription." (pp. 49-62.)
 - III. "The Flourishing of Manichaeism under the West Uighur Kingdom. New Edition of the Uighur Charter on the Administration of the Manichaean Monastery in Qočo." (pp. 63-83.)
 - IV. "The Decline of Manichaeism and the Rise of Buddhism among the Uighurs with a Discussion on the Origin of Uighur Buddhism." (pp. 84-100.)
 In: T. Moriyasu (ed.), *Shirukurōdo to sekaishi [World History Reconsidered through the Silk Road]*, (Osaka University The 21st Century COE Program Interface Humanities Research Activities 2002*2003, Vol. 3), Toyonaka (Osaka): Osaka University, Graduate School of Letters, 2003 / 12, pp. 23-111, +15 pls. in colour, 8 maps, 3 figs.

2004

- 65-0. 森安孝夫 (編) 『中央アジア出土文物論叢』 京都, 朋友書店, 2004 / 3, vii + 181 頁, 巻頭カラー図版 8 頁.
- 65-1. 「序文 ——シルクロード史観論争の回顧と展望——」, 森安孝夫 (編) 『中央アジア出土文物論叢』 京都, 朋友書店, 2004 / 3, pp. i-vii.
- 65-2. 「シルクロード東部における通貨 ——絹・西方銀銭・官布から銀錠へ——」, 森安孝夫 (編) 『中央アジア出土文物論叢』 京都, 朋友書店, 2004 / 3, pp. 1-40.

66. "From Silk, Cotton and Copper Coin to Silver. Transition of the Currency Used by the Uighurs during the Period from the 8th to the 14th Centuries." In: D. Durkin-Meisterernst / S.-Ch. Raschmann / J. Wilkens / M. Yaldiz / P. Zieme (eds.), *Turfan Revisited. The First Century of Research into the Arts and Cultures of the Silk Road*, Berlin: Dietrich Reimer Verlag, 2004 / 5, pp. 228-239, incl. 2 pls.
67. 「亀茲国金花王と碯砂に関するウイグル文書の発見」, 『三笠宮殿下米寿記念論集』東京, 刀水書房, 2004 / 11, pp. 703-716, incl. 1 pl.
68. *Die Geschichte des uigurischen Manichäismus an der Seidenstraße. —Forschungen zu manichäischen Quellen und ihrem geschichtlichen Hintergrund—*. Übersetzt von Christian Steineck, (Studies in Oriental Religions, 50), Wiesbaden: Harrassowitz Verlag, 2004 / 12, xix + 292 pp.

2005

69. 「シルクロード「学」へのまなざし」, NHK「新シルクロード」プロジェクト(編)『NHKスペシャル 新シルクロード 1 楼蘭・トルファン』東京, 日本放送出版協会, 2005 / 2, pp. 196-210.
70. 「前近代中央アジアにおける税役」『東方学会報』88, 2005 / 8, pp. 14-16.
71. "Taxes and Labour Services in Pre-modern Central Asia." *Transactions of the International Conference of Eastern Studies* 50, 2005 / 12, pp. 164-169.

2006

72. 遠藤和男／宅見有子／佐藤貴保 と共著「遼・西夏」, 礪波 護／岸本美緒／杉山正明(共編)『中国歴史研究入門』名古屋, 名古屋大学出版会, 2006 / 1, pp. 158-171, 408-411.

2007

73. 『シルクロードと唐帝国』(興亡の世界史, 第5巻), 東京, 講談社, 2007 / 2, 396頁, カラー口絵8頁.
74. 「西ウイグル仏教のクロノロジー ——ベゼクリクのグリュンヴェーデル編号第8窟(新編号第18窟)の壁画年代再考——」『仏教学研究』62/63(合併号), 2007 / 3, pp. 1-45.
75. 「唐代における胡と仏教的世界地理」『東洋史研究』66-3, 2007 / 12, pp. 1-33, incl. 1 pl.

2008

76. "Introduction to the *Japanese Studies in the History of Pre-Islamic Central Asia*." *Acta Asiatica* 94, 2008 / 2, pp. iii-ix.

77. "Japanese Research on the History of the Sogdians along the Silk Road, Mainly from Sogdiana to China." *Acta Asiatica* 94, 2008 / 2, pp. 1-39.
78. "Epistolary Formulae of the Old Uighur Letters from Central Asia." *Acta Asiatica* 94, 2008 / 2, pp. 127-153.
79. "Chronology of West Uighur Buddhism: Re-examination of the Dating of the Wall-paintings in Grünwedel's Cave No. 8 (New: No. 18), Bezeklik." In: P. Zieme (ed.), *Aspects of Research into Central Asian Buddhism. In Memoriam Kōgi Kudara*, (Silk Road Studies, 16), Turnhout (Belgium): Brepols, 2008 / 3, pp. 191-227.

2009

80. 鈴木宏節／齊藤茂雄／田村 健／白 玉冬 と共著「シネウス碑文訳注」『内陸アジア言語の研究』24, 2009 / 6, pp. 1-92, + 12 pls.

2010

81. 「日本に現存するマニ教絵画の発見とその歴史的背景」『内陸アジア史研究』25, 2010 / 3, pp. 1-29.

2011

82. "The Discovery of Manichaean Paintings in Japan and Their Historical Background." In: Jacob Albert van den Berg et al. (eds.), '*In Search of Truth: Augustine, Manichaeism and Other Gnosticism. Studies for Johannes van Oort at Sixty*', (Nag Hammadi and Manichaean Studies, 74), Leiden / Boston: Brill, 2011 / 1, pp. 339-360.
83. 「シルクロード東部出土古ウイグル手紙文書の書式（前編）」『大阪大学大学院文学研究科紀要』51, 2011 / 3, pp. 1-86. (和文版: pp. 1-31 + 和英文献目録 on pp. 70-86) .
"Epistolary Formulae of the Old Uighur Letters from the Eastern Silk Road (Part 1)." *Memoirs of the Graduate School of Letters Osaka University* 51, 2011 / 3, pp. 1-86. (English version: pp. 32-69 + bilingual bibliography on pp. 70-86).
84. 「内陸アジア史研究の新潮流と世界史教育現場への提言」『内陸アジア史研究』26, 2011 / 3, pp. 3-34.
- 85-0. 森安孝夫（編）『ソグドからウイグルへ』東京，汲古書院，2011 / 12, 16 + 631 pp.
- 85-1. 「日本におけるシルクロード上のソグド人研究の回顧と近年の動向（増補版）」，森安孝夫（編）『ソグドからウイグルへ』東京，汲古書院，2011 / 12, pp. 3-46.
- 85-2. 「シルクロード東部出土古ウイグル手紙文書の書式（後編）」，森安孝夫（編）『ソグドからウイグルへ』東京，汲古書院，2011 / 12, pp. 335-425.

2012

86. "Epistolary Formulae of the Old Uighur Letters from the Eastern Silk Road (Part 2)."
Memoirs of the Graduate School of Letters Osaka University 52, 2012 / 3, pp. 1-97,
incl. 3 colour pls.